

横浜市都市美対策審議会景観審査部会  
北仲通南準特定地区

「景観形成の考え方」

1. ワークショップ
2. 低層部デザイン
3. 屋外広告物
4. 緑化・外構
5. 夜間景観
6. 歴史遺構

# 1. ワークショップ

# 第一回、第二回、第三回 ワークショップ《前半》

- 第一回 6/24(金) 18:30-21:00 参加人数 43人
- 第二回 6/25(土) 13:30-16:00 参加人数 30人
- 目的: 低層部のアイデアをできるだけ多く考えよう

➡ 計 402個のアイデア

## □グループワーク

- ・基本計画を提示・説明し、各自の意見や利用イメージをグループメンバーで討議



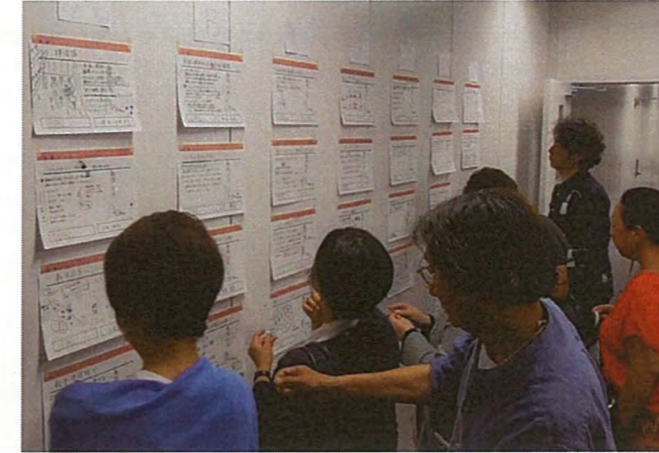
① 新市庁舎とWSのヒントを説明。その後、グループワークで市庁舎の活用アイデアをディスカッション

## □個人ワーク

- ・グループワークでの討議を経てまとめた活用アイデアを参加者全員が発表



② 参加者がそれぞれのアイデアを発表



③ 最後はアイデアシートを壁に貼り出して投票

- 第三回 7/31(日) 15:00-17:30 参加人数 39人
- 目的: 活用アイデアをまとめて運営につなげよう

- ・第一回と第二回の活用アイデアを踏まえて低層部の運営について考える

## □グループワーク

- ・ひろば、水辺、市民協働、展示・回廊、サービス・サポートにグループ分け
- ・第一回と第二回の活用アイデアを配布し、運営についての議論を深める



① 場所ごとにグループを分け、運営についてディスカッション



② グループごとに成果を発表

## □個人ワーク

- ・グループワークでの議論を踏まえて低層部のキャッチフレーズを考える



③ 最後は低層部のキャッチフレーズを貼り出して講評

《後半》 ……マネジメントビジョンへ市民の声を反映する/完成後の低層部の運営主体を発掘、育成する/新たな公民連携の可能性や方向性を検証する

- 第四回 11/21(予定) 「ひろば」の運営に求められるルール・機能を抽出しよう
- 第五回 12/20(予定) 「ひろば」の運営に求める仕組み
- 第六回 1/20(予定) 「ひろば」のネーミング(コンセプト)

■アイデアの整理方法

- ①参加者の全アイデアを集計
- ②「計画(ハード)への意見」と「運営(ソフト)への意見」に分類
- ③ハードとソフト、パブリックとプライベートの四象限マトリクスから整理
- ④キーワードに基づきカテゴライズ
  - 異なる表現であっても共通するものは類型化
  - アイデアの多寡を円の大きさ、相関性を配置で表現

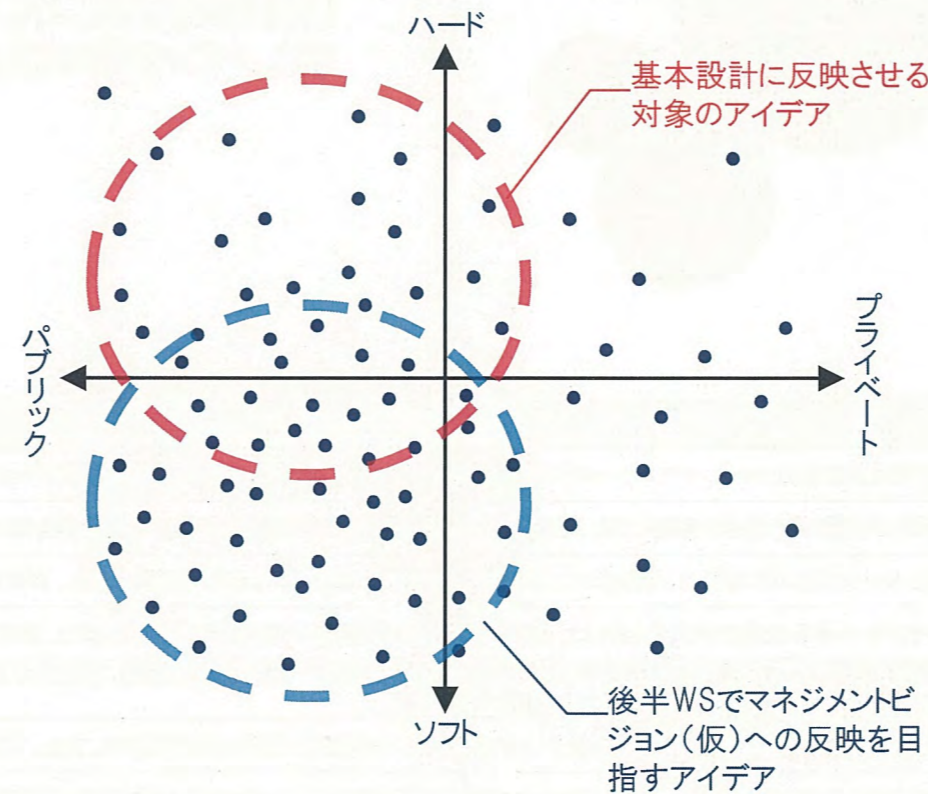
① 参加者の全アイデアを集計



② アイデアの分類・整理(一覧表)

No.	提案内容	ハード	ソフト	パブリック	プライベート
1	水辺の緑地を確保する	○		○	
2	水辺の歩道を整備する	○		○	
3	水辺の憩いの場を創出する		○		○
4	水辺の防災機能を高める	○		○	
5	水辺の歴史を伝える		○		○
6	水辺の文化施設を創設する		○		○
7	水辺の交流空間を創設する		○		○
8	水辺の防災機能を高める	○		○	
9	水辺の歴史を伝える		○		○
10	水辺の文化施設を創設する		○		○
11	水辺の交流空間を創設する		○		○
12	水辺の防災機能を高める	○		○	
13	水辺の歴史を伝える		○		○
14	水辺の文化施設を創設する		○		○
15	水辺の交流空間を創設する		○		○
16	水辺の防災機能を高める	○		○	
17	水辺の歴史を伝える		○		○
18	水辺の文化施設を創設する		○		○
19	水辺の交流空間を創設する		○		○
20	水辺の防災機能を高める	○		○	

③ アイデアをハードとソフト、パブリックとプライベートの四象限マトリクスから整理



■基本設計に反映するアイデアの抽出方法

1. 対象のアイデアはハードに関するパブリック性のあるもの
2. 実現可能な「計画への意見」をキーワードごとに抽出
3. 実現が難しいものについては、その意見(想い)を斟酌し可能な形での反映を検討
4. ワークショップを俯瞰してとらえた総合的な意見をファシリテーターにヒアリングし検証

④ キーワードに基づきカテゴライズ

④ キーワードに基づきカテゴライズ

A アイデアのキーワード: ひろば

B アイデアのキーワード: 水辺

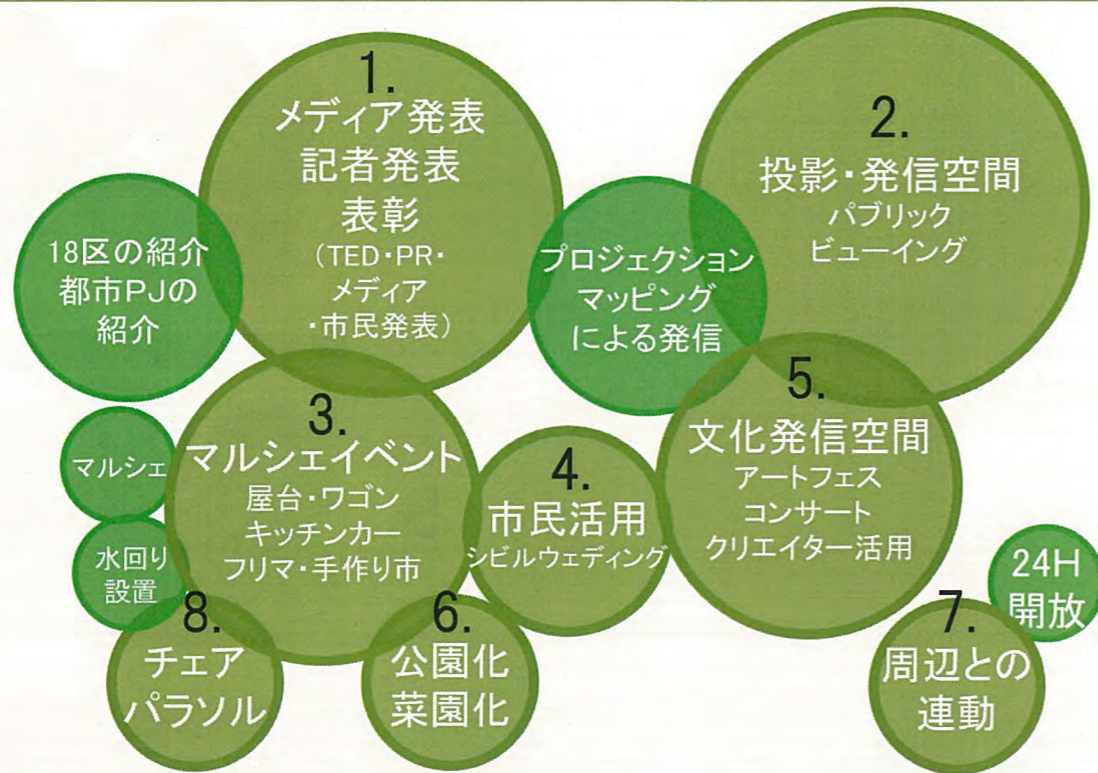
C アイデアのキーワード: 展示・回廊

D アイデアのキーワード: 市民協働空間

E アイデアのキーワード: サービス・サポート

A

アイデアのキーワード:ひろば



WSの多様な意見から設計チームが抽出したテーマ:

市を代表するイベント・にぎわい空間、メディア等への発表用空間、市の情報を発信するための空間、平時に訪れたくなる憩いの空間など、イベント時も平時も魅力ある空間とする。



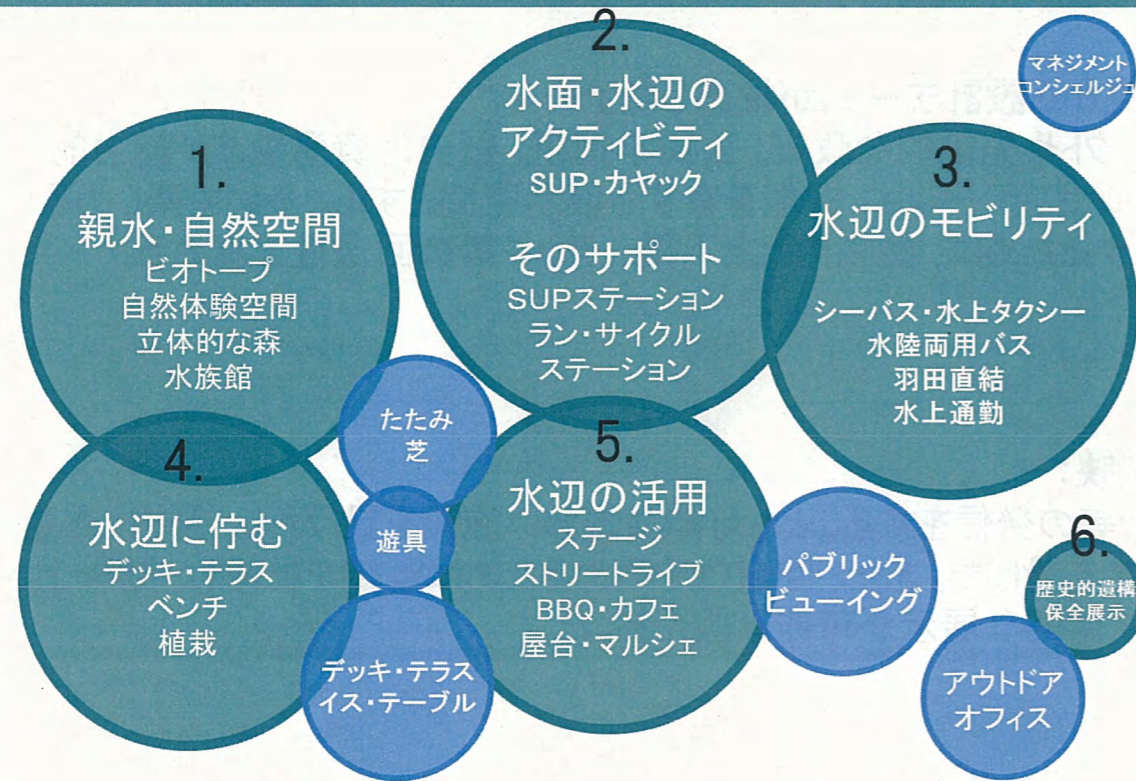
基本設計への反映:

屋根付き広場には、溜まり場空間やイベント時に使える電源を設けるとともに、市の情報を発信することもできる賑わい施設を確保した。また、各ひろばが憩いの場になるように、ベンチ等の家具を設え、シンボルツリーによる特徴づけをした。

番号	計画への意見	基本設計への反映
A-1 A-2 A-4 A-5	パブリックビューイングができるようにする	屋根付き広場の200インチモニターの大型化を検討中。また、2階には屋根付き広場を見下ろせる溜まり場を設けた。
A-1 A-2	市政や都市づくりを魅力的に発信する	2階コア東側の屋根付き広場に面したところに、市政や都市づくりの発信をすることも可能な賑わい施設を確保した。具体的な管理・運営方法については、今後協議が必要。
A-3	屋根付き広場でマルシェができるようにする	軽トラックの搬入は可能(火気厳禁のため、ガソリンを抜いて移動させる必要あり)。また、床面には催事のためのコンセントを配置した。
A-6 A-7	屋根付き広場を屋外的な広場にする	トップライトから自然光が入るとともに、歩行者用通路に植栽をして開口部を設けた。また、南北プラザには大型引戸を設けることにより、視覚的にも空間的にも屋外と連続したスペースにした。
A-6 A-7	外部と内部の曖昧な空間にする	市民協働スペース(小)と水際線プロムナードを一体的な空間にするための開口部、屋根付き広場と南北プラザを一体的に利用するための大型引戸、南側の商業施設から国道133号を緩やかにつなぐレイヤー状の空間構成等、外部と内部を曖昧な空間にする計画とした。
A-6 A-8	屋根付き広場の景色が見える場所に机とイスを配置する	景色が眺められる場所に可動式の机やイスを置けるような管理・運営体制を検討中。また、可動式の家具を収納できる倉庫を確保した。
A-6 A-8	屋根付き広場に無目的にたずめる場所をつくる	可動式の机やイスを配置し、無目的にたずめる場所を設えることができるような管理・運営体制を検討中。
A-6	景色を楽しむ休憩場所をつくる	景色を楽しみながら休憩できるよう、水際線プロムナードや水辺広場にベンチを設置した。
A-6	3つの広場を特徴づける	橋詰広場には既存大銀杏、水辺広場にはスタジイ、屋根付き広場付近にはケヤキといったように、広場ごとにシンボルツリーを配置し、それぞれの広場に特徴を持たせた。
A-6	水辺広場にベンチを設置する	遺構を活用した階段状ランドスケープにベンチを設置した。
A-6	いきものが沢山いる雑木林のような場をつくる	横浜アイランドタワーとの間の歩行者通路を地域植生による雑木林にした。
A-6	屋上緑化等により屋上の有効利用をする	3階から8階にかけて緑のカスケード、5階のテラスの緑化、8階の屋上緑化を行う。
A-7	馬車道駅とのアクセス性を考慮する	馬車道駅接続口からは屋根付き広場への視覚的連続性を高めた。また、トップライトを設けて地下でも方位が容易にわかるようにした。

B

アイデアのキーワード:水辺



WSの多様な意見から設計チームが抽出したテーマ:

外部空間と内部空間のつながり、河川の取り込み、周辺街区や歴史的資源などを意識した空間とする。6,000人の職員の存在や市民の来訪等を含めた、新たな流動の変更について再整理し、モビリティを考慮した空間とする。



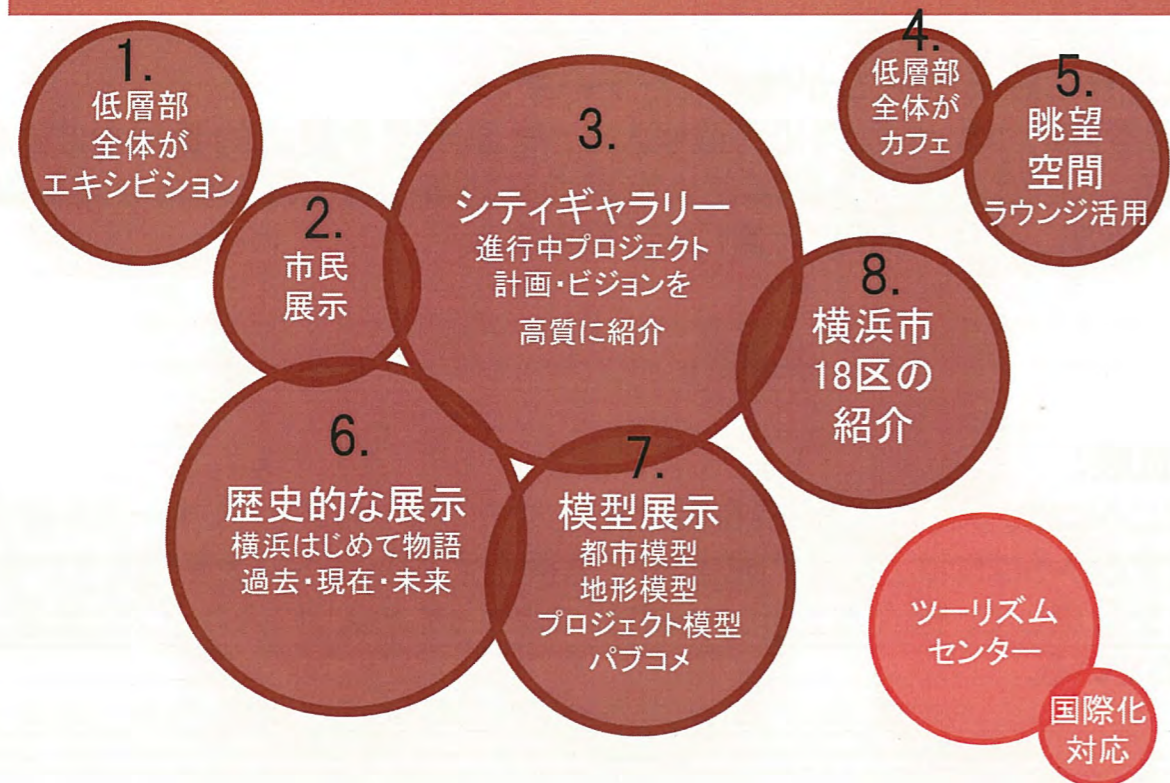
基本設計への反映:

水辺に面するところには、大きな開口部を設けたり、オープン・カフェ・スペースを確保した。水辺に面するひろばには、遺構の展示や、遺構を活用したベンチを設けている。また、モビリティを考慮して、様々な方向から水辺に降りられるようにスロープを設置して親水性を高めている。

番号	計画への意見	基本設計への反映
B-1 B-3	水辺との近接性確保や川に行くためのスロープを設置する	水際線プロムナードのスロープ位置を変更し、水辺とのアクセス性を高めた。また、水辺のモビリティを考慮して様々な方向から川辺に降りられるようスロープを設置している。
B-1 B-4	景色を楽しむ休憩場所をつくる	景色を楽しみながら休憩できるよう、水際線プロムナードや水辺広場にベンチを設置した。
B-1 B-4	海風を感じる場所をつくる	水際線プロムナード、水辺広場、北プラザにベンチや植栽を配置した。
B-2	市民協働スペースを大岡川と視覚的に連続させる	市民協働スペース(小)は水辺に沿った配置に変更し、間口を拡幅して大岡川と視覚的に連続させた。また、大きな開口部を設ける等、視覚だけではなく、空間的にも連続するよう検討している。
B-2	水辺活用環境を整備する	水辺の活動をサポートするために、橋詰広場に足洗い場を兼ねた水回りの設置を検討している。
B-4 B-5	起伏が溜まり場になり、何となくでも来なくなる場所をつくる	水辺広場を階段状のランドスケープで囲われた場とし、賑わい施設と一体的な運用ができるようにした。また、水際線プロムナードと屋根付き広場とつながる位置に溜まり場を設けた。
B-4 B-5	水辺でのイベントを上から眺められるようにする	2階デッキにはオープン・カフェ・スペースとしても利用できる溜まり場を設け、3階の水辺を眺められる窓側には、ベンチを設置する方向で検討している。
B-4 B-6	水辺広場にベンチを設置する	遺構を活用した階段状ランドスケープにベンチを設置した。
B-4	川辺に横並びで座れる場所をつくる	水際線プロムナードに溜まり場を設けるとともに、ベンチを設置した。階段状のランドスケープにも横並びで座れるようなベンチを設置する方向で検討している。
B-4	(ぼんやりと)何かを眺められるテラスをつくる	水際線プロムナードや2階デッキには水辺を眺められる溜まり場を設け、1階国道側にはベンチや机等を設えてグリーンファニチャーを計画した。
B-6	発掘遺構を展示し、歴史を継承する	馬車道駅との連絡通路や水辺広場等の外構に、発掘遺構を展示するスペースを設けた。

C

アイデアのキーワード: 展示・回廊



WSの多様な意見から設計チームが抽出したテーマ:

横浜市のプロジェクトや先端的な政策、公民学連携、歴史的資源などが魅力的に発信されるようなプレゼンテーション機能を有する展示空間とする。歩いて楽しめる“街のような”低層部とするために、建物内、上下階、デッキ等の回遊性を高める。



基本設計への反映:

市政や都市づくり等の発信をすることも可能な賑わい施設を設けたり、発掘した遺構を展示するスペースを設けた。また、回遊性を高めるために動線を拡幅し、動線上の展示スペースは、立体的な展示が可能な設えとした。

番号	計画への意見	基本設計への反映
C-1	展示スペースはバリアフリー対応する	各方面からのアクセスに対して、1階床レベルを最適化した(TP+3.6→3.4)。また、横浜市福祉のまちづくり条例に基づき、展示スペースに限らず、全てのフロアでバリアフリー対応をしている。
C-2 C-7	展示スペースは模型を展示できる空間にする	避難安全検証法により、美術館・博物館並みの火災荷重を見込める範囲を展示スペースとして確保した。また、壁面だけでなく、立体的な展示も可能にした。
C-3 C-8	市政や都市づくりを魅力的に発信する	2階コア東側の屋根付き広場に面したところに、市政や都市づくりの発信をすることも可能な賑わい施設を確保した。具体的な管理・運営方法については、今後協議が必要。
C-4 C-5	水辺でのイベントを上から眺められるようにする	2階デッキにはオープン・カフェ・スペースとしても利用できる溜まり場を設け、3階の水辺を眺められる窓側には、ベンチを設置する方向で検討している。
C-5	パブリックビューイングができるようにする	200インチモニターの大型化を検討中。また、2階には屋根付き広場を見下ろせる溜まり場を設けた。
C-5	(ぼんやりと)何かを眺められるテラスをつくる	水際線プロムナードや2階デッキには水辺を眺められる溜まり場を設け、1階国道側にはベンチや机等を設えてグリーンファニチャーを計画した。
C-6	発掘遺構を展示し、歴史を継承する	馬車道駅との連絡通路や水辺広場等の外構に、発掘遺構を展示するスペースを設けた。

D アイデアのキーワード: 市民協働空間



WSの多様な意見から設計チームが抽出したテーマ:

370万人の横浜市民の協働、創造的な市民共創を生み出し、これを国内外に発信する、いわば「ラボ」となるような空間とする。「開かれた市庁舎」という目標を体現するために、気軽に市職員との距離を縮める、市民と職員、職員同士の接点がうまれるような空間とする。



基本設計への反映:

市民協働スペースは、創造的な市民共創を生み出せるように、水辺やひろばとの一体性を重視するとともに、幅広い使い方に対応できるように設えた。また、要所に家具を配置することで、市民と職員や、市民・職員同士で相談等を行えるようにした。

番号	計画への意見	基本設計への反映
D-1 D-2	市民協働スペースを大岡川と視覚的に連続させる	市民協働スペース(小)は水辺に沿った配置に変更し、間口を拡幅して大岡川と視覚的に連続させた。また、大きな開口部を設ける等、視覚だけではなく、空間的にも連続するよう検討している。
D-2 D-3	市民協働スペースをカフェのような空間にする	市民協働スペースは今後の議論で幅広い使い方に対応できるように、火災荷重・構造荷重設定を危険側(物販等)に想定した。
D-2	外部と内部の曖昧な空間にする	市民協働スペース(小)と水際線プロムナードを一体的な空間にするための開口部、屋根付き広場と南北プラザを一体的に利用するための大型引戸、南側の商業施設から国道133号を緩やかにつなぐレイヤー状の空間構成等、外部と内部を曖昧な空間にする計画とした。
D-2	屋外で本を読めたり簡単な作業ができる場所をつくる	1階国道側にベンチや机等を設えたグリーンファニチャーを計画し、屋外でも本を読んだり簡単な作業ができるようにした。
D-3 D-5	職員も市民も気軽に休めるカフェ空間をつくる	エスカレーターを東に移動し、カフェとグランドロビーのつながりを強め、気軽に立ち寄れるようにした。
D-4	市政や都市づくりを魅力的に発信する	2階コア東側の屋根付き広場に面したところに、市政や都市づくりの発信をすることも可能な賑わい施設を確保した。具体的な管理・運営方法については、今後協議が必要。
D-5	水辺でのイベントを上から眺められるようにする	2階デッキにはオープン・カフェ・スペースとしても利用できる溜まり場を設け、3階の水辺を眺められる窓側には、ベンチを設置する方向で検討している。

E アイデアのキーワード: サービス・サポート



**WSの多様な意見から設計チームが抽出したテーマ:**  
 店舗空間は、自由度の高い柔軟な空間として位置づけ、横浜ならではの商品購入や、クリエイティブチャレンジなどが活きる空間とする。  
 こどもがいても訪れられる、こどもからお年寄りまで居心地の良い市庁舎として設える。



**基本設計への反映:**  
 商業施設の間仕切り壁は様々なレイアウトに対応できるようにした。横浜ならではの店舗空間とするために、水辺に開いたオープン・カフェ・スペースを確保した。また、こどもがいても訪れられるようにベビー休憩室を設置した。

番号	計画への意見	基本設計への反映
E-1 E-4	屋根付き広場でマルシェができるようにする	軽トラックの搬入は可能(火気厳禁のため、ガソリンを抜いて移動させる必要あり)。また、床面には催事のためのコンセントを配置した。
E-1	水辺でのイベントを上から眺められるようにする	2階デッキにはオープン・カフェ・スペースとしても利用できる溜まり場を設け、3階の水辺を眺められる窓側には、ベンチを設置する方向で検討している。
E-1	商業施設はテイクアウト店舗やフードコートができるように壁をなくす	商業施設の間仕切り壁は、様々なレイアウトに対応できるように自由に設定できるように変更した。
E-2 E-4 E-5	市民協働スペースはカフェのような空間にする	市民協働スペースは今後の議論で幅広い使い方に対応できるように、火災荷重・構造荷重設定を危険側(物販等)に想定した。
E-3	トイレには男女共にベビーベッドや授乳室を設置する	屋根付き広場に隣接する位置に、トイレとは別にベビー休憩室を設置し、男女のどちらもが利用できるようにした。
E-6	馬車道駅とのアクセス性を考慮する	馬車道駅接続口からは屋根付き広場への視覚的連続性を高めた。また、トプライトを設けて地下でも方位が容易にわかるようにした。